



# 元気企業 訪問

## 日光化成 株式会社

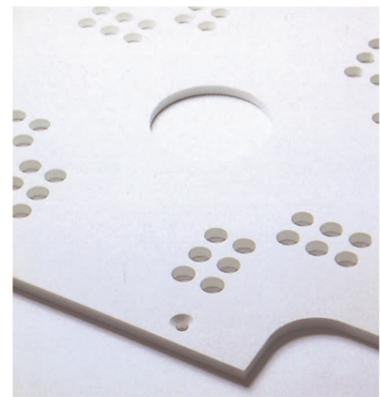
代表取締役社長

### 利倉 一彰さん

とくらかずあき

# オープンイノベーションをキーワードに 新しいアイデアと技術を取り入れたモノづくりで 次世代の価値を創造

電気絶縁材の技術を活用し、高付加価値の材料を開発する材料メーカー。独自の「配合技術」で今までの世の中になかった「複合材料」を創り出し、自動車、医療、半導体、住宅など幅広い分野でのニーズに対応。自社開発に加え、「オープンイノベーション」、「産学官コンソーシアム」などの共同開発を積極的に推進し、新しいアイデアと技術を取り入れたものづくりで次世代の価値を生み出している。



ロスナボード

### 新しい形の研究開発型 企業（R&D）の中核と なる滋賀技術研究所

大阪の企業が滋賀県に進出した背景は？

当社は1947年、化学材料・機械器具類の販売商社として創立。その後フェニール樹脂を主とする熱硬化性樹脂積層品の生産を開始しました。1956年に日光化成株式会社と改称し、新たに熱可塑性樹脂射出成形品と不燃建築材料の部門を設置しました。1966年、滋賀県の誘致を受け、製造拠点を湖南市の工業団地に新設し複合材料メーカーとして本格的にスタート



大阪技術研究所



2023年完成予定の滋賀イノベーション研究所（仮称）完成予想図

を切りました。現在、当地には工場のほかに1989年に技術研究所、2002年に商品開発センターを開設しました。技術研究所では、当社の看板商

品ともいえる「ロスナボード」など、耐熱性の高い材料の自社開発に成功してきました。近年、産学官のコンソーシアムによる研究や大手企業との共同研究を推進しており、より多

くのオープンイノベーション（O<sup>2</sup>）に対応できるイノベーション研究所を2023年に開設する予定です。新しい形のR&D型企業の中核として、滋賀技術研究所はさらなる高みを目指しています。

### 材料メーカーではあるが、より最終商品に近い形での部品化を実現。多角的な視点でモノづくりの可能性を拓く

具体的な事業内容は？

ひと言で言えば、基礎となる電気絶縁材の技術を活用し、高付加価値の材料を開発する材料メーカーです。複数の異なる原料を独自の配合

問い合わせ先

(公財)滋賀県産業支援プラザ 連携推進部 ものづくり支援課

☎ 077-511-1414

📠 077-511-1418

✉ shin@shigaplaza.or.jp



医療器

技術でブレンドし、今までの世の中になかった「複合材料」を創り出しています。その技術は、従来の電気部品だけではなく、新幹線、医療、半導体、電池、建材など多岐にわたる分野に拡大しています。

さらに商品開発センターでは、開発した材料の可能性を最大限に引き出すため、加工、成形、デザイン、部品化までワンストップで行っています。つまり、材料メーカーが部品化もやっているというわけです。材料販売で終わりではなく、それがユーザーに直接採用されることで、時代のニーズやトレンドをダイレクトに掴むことができ、未来に向けた研究開発や製造に的確に活かせるからです。材料メーカーとしては異端的存在ですが、多くのオープンイノベーションを実現するためには必要不

きつかけは産業支援プラザからの声掛けです。異業種の経営者、大学、研究機関の方など多くの京滋地区での交流をするきっかけをいただきました。最近では医工連携にもご協力いただいています。様々な人との出会いが、新規の開発・研究事業に結びつき、社員も巻き込んで当社の新しい研究や挑戦のきっかけになっています。特に相手が発想や価値観の違う人だと、本心に新しいビジ

### いろいろな人とつながることで、新しい発想が生まれてくる。

サポイン事業について

サポイン事業も、こういう人とのつながりがあったからで、現在進行中の研究開発でも様々な人たちからアドバイスやサポートを受けています。事業の具体的な内容は、当社独自の技術でリチウムイオン二次電池（



社員同士、社外の人とくつろぎながら会話ができるイノベーションサロン

ネスのヒントが生まれます。私がオープンイノベーションや産学コンソーシアムなどの共同開発を推進する理由の一つはここにあります。さらにこの流れを推し進めるため社員同士や社外の人とくつろぎながら会話ができる「イノベーションサロン」（大阪本社）を社内には設けているのも、人との出会いを大切にしているからなのです。今年滋賀事業所にも新たなサロンを設置する予定です。

### 日光化成の新たな経営 ビジョンづくりで経営者と社員が同じ価値観を共有

社員教育について

仕事あるいは事業に対する私の価値観、哲学についても良いのですが、それを社員と共有できるのが理想です。

現在、経営幹部で「日光化成の経営ビジョン」の完成を急いでいます。これはコロナ禍で見失いがちな経営の価値観やフィロソフィーの共有化をすることで経営判断を迅速に行うためです。その中一つは、「次の世代のために」というものです。多くの経営課題について、短期的な視野で判断しがちですが、必ずしも将来を考えた判断ではないことが多いからです。次世代に通用するかを意識した判断基準を立てていくためには、皆で新たな価値観を創造することが大事と考えているからです。経営者だけでなく、理想としては全社員を巻き込んだ新たな経営ビジョンの創造を通じて、会社全体が同じ方向を向いて次世代に通じる日光化成の第二創業期を迎えられるよう努力していきたいと思っています。

※ 戦略的基盤技術高度化支援事業（通称：サポイン）

国の中小企業の研究開発に対する代表的な競争的資金支援制度。産業支援プラザは平成19年度から、しが新事業創造ネットワークの活動を通じ構築した産学官連携による研究プロジェクトに対して、事業管理機関として研究開発を支援しています。



#### <PROFILE>

日光化成株式会社

■代表者／代表取締役社長 利倉 一彰

■従業員／140名

■所在地／大阪府大阪市北区大淀北1丁目6番41号(本社)

滋賀県湖南市石部口4丁目2番1号(滋賀工場 滋賀技術研究所)

■創立／1947年

■業務内容／ブレンド技術による機能性樹脂材料(電気絶縁材・断熱材など)の開発・製造・販売、プラスチック成形加工品の製造・販売

■TEL／06-6458-5511(代表)

■URL／http://www.nikkokasei.co.jp